

教科 科目	国語 論理国語	学 年	5年	単 位	2単位	担 当	岩崎 勇太
<b>【科目の概要】</b> 現代の国語で身につけた学力を基に、近代以降の文章を読解するための応用力を身に付け、ものの見方や考え方を深く養っていくことを目的とします。国語としての日本語を大切にし、語彙力を高めるとともに、自然や人間、現代社会が抱える様々な問題と自分自身との関わり方について考えます。							
<b>【育成をめざす学力】</b> 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
<b>【評価の観点】</b>							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身についている。		
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	「天然知能として生きる」「自他の『間あい』」						
5月	『『私』中心の日本語』						
6月	「日本人の『自然』」「手の変幻」						
7月	「越境する動物がもたらす贈り物」						
8月	「推論とは何か」「帰納法のワナ― 一般化に対する疑問」						
9月	「働かないアリに意義がある」						
10月	「A I時代の社会と法」						
11月	「なぜ多様性が必要か」						
12月	「生態認証技術の発展と未来」						
1月	「コミュニティ空間としての都市」						
2月	『『第二の身体』としてのメディアと技術』						
3月	「対話の意味」「身体的表現の関係性」						

教科 科目	国語 古典探求（古文）	学 年	5年	単 位	1単位	担 当	佐藤 春美
<b>【科目の概要】</b> 「古文」は「言語文化」での古文の基礎を発展させる科目です。古語単語・文法事項・古典常識などに関する基礎知識をつけることで、古文特有の文体や修辞などの表現上の特徴を理解できるようにします。先人の生活様式や、美意識、価値観を学び、日本の伝統文化に対する理解を深めます。							
<b>【育成をめざす学力】</b> 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。							
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。							
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
<b>【評価の観点】</b>							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。		
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	説話 古今著聞集「小式部内侍が大江山の歌の事」随筆 徒然草「あだし野の露消ゆるときなく」						
5月	随筆 方丈記「ゆく川の流れ」						
6月	歌物語 伊勢物語「初冠」「狩りの使ひ」						
7月	物語 大和物語「姥捨」						
8月	日記 蜻蛉日記「泔坏の水」						
9月	日記 和泉式部日記「夢よりもはかなき世の中」 随筆 枕草子「木の花は」「すさまじきもの」						
10月	物語 源氏物語「若宮誕生」「若紫」						
11月	物語 源氏物語「若紫」 歴史物語 大鏡「弓争ひ」						
12月	歴史物語 大鏡「花山天皇の出家」						
1月	日記 更級日記「門出」「源氏の五十余巻」						
2月	軍記物語 平家物語「能登殿の最期」						
3月	和歌・俳諧 「古今和歌集 仮名序」						

教科 科目	国語 古典探求（漢文）	学 年	5年	単 位	1単位	担 当	佐藤 春美
<b>【科目の概要】</b>							
<p>語句・句法などを理解したうえで、漢文の訓読のきまりに従って音読し、現代語訳や解釈・鑑賞ができるようにします。また漢文作品をとおして、漢文の文章の特徴を知り、人間の生き方・中国の歴史・思想などについて、自分の考え方を深めていきます。先人たちの価値観や考え方を学び、文化を継承していく姿勢を身に付けていきます。</p>							
<b>【育成をめざす学力】</b>							
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>							
<b>【評価の観点】</b>							
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。			
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	故事・逸話「推敲」「呉越同舟」「嬰逆鱗」「知音」						
5月	史話・史伝「鶏鳴狗盗」						
6月	史話・史伝「背水之陣」						
7月	史話・史伝「鴻門之会」						
8月	史話・史伝「鴻門之会」						
9月	史話・史伝「四面楚歌」						
10月	詩「独坐敬亭山」「九月九日憶山東兄弟」「除夜寄弟妹」「江村」						
11月	寓話「織女」						
12月	寓話「蟻王」						
1月	寓話「酒虫」						
2月	思想 孟子「性善」老子「小国寡民」莊子「渾沌」						
3月	思想 韓非子「非愛也」 語彙、漢文句法の復習						

教科 科目	公共	学 年	5年	単 位	2単位	担 当	古賀 彩香
<p><b>【科目の概要】</b> ソ連邦のウクライナ侵攻は事態の収束が未だ見えない中、国際社会は、自国中心主義の下、武装平和による安全保障への回帰が顕著となっている一方で、地球環境の破壊が一体化して取り組むべき待ったなしの課題となっている。日本に目を転じれば、少子高齢化の進行、低迷する日本経済の中での物価高と不安定な雇用、資源・エネルギー問題の深刻化、IT社会、多様性社会の進展など、これまで日本の発展を支えてきた価値観の転換を迫られる様々な課題に直面している。こうした現代社会において求められるのは、日々起こる諸事象を意味づけ、課題を発見し、問題解決の糸口を探し、他者との協働によってよりよい社会を構築していく力である。5学年の「公共」は、現代の社会を形成してきた20世紀以降の歴史を、昨年度から学んでいる「歴史総合」の学習で確認したうえで、新たに学ぶ「倫理」、「政治」、「経済」、「国際社会」の基本原則と関連づけて、現代社会を多面的・多角的に考察し、社会で生きていく自分自身の価値観を形成する。さらに、他者の価値観を尊重し、他者と協働しつつ生きていく公共空間を構築し、よりよい社会に変革していく力を磨いていく科目である。</p>							
<p><b>【育成をめざす学力】</b></p> <p>(知識) 現代日本と世界の倫理、政治、経済に関する基礎事項を理解する力。  (技能) 現代日本と世界の倫理、政治、経済と自己とのかかわりを具体例から把握し、意味づける力。  (活用) 現代社会の現状を評価し、課題を発見し、解決策について多面的に考察し、根拠を示して提示する力。  (探求) 社会に生きる一員としての権利と責任を自覚し、他者との議論と協働を通して、公共・公正な社会を構想する力。</p>							
<p><b>【評価基準・評価項目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の諸事象に関する基本用語を正確に暗記し、表記できる。(A①)</li> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の基本原則を現代史と関連づけて理解し、整理できる。(A②)</li> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の諸事象を基本原則と関連づけ、習得した基本用語を使って説明できる。(A③)</li> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の諸事象に関する利害や価値観の対立論争を複合的な視点で理解し、整理できる (B②)</li> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の諸事象を、公平・公正の観点から評価できる。(A④B②)</li> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の諸事象の評価から、事象の課題を発見し、解決策を考え、その結論を提示できる。 (社C①～⑤)</li> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の諸事象に関する資料から、その事象の特徴や傾向を理解できる (社A④)</li> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の諸事象の成果と課題を図版、地図、グラフ、文章等の資料を活用して表現できる (社B④, C①～⑤)</li> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の諸事象の成果と課題について、他者と建設的な議論ができる (社A⑤, B⑤, C⑥)</li> <li>・倫理・政治・経済・国際社会の諸事象の学習を通じて、意義を理解し、興味・関心を喚起できる (社C⑦)</li> </ul>							
<p><b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b></p>							
4月	<b>1 社会をつくる私たち</b> (1) 青年期と自己形成						
5月	(2) 職業生活と社会参加 (3) 伝統文化と日本思想						
6月 7月 8月	<b>2 人間としてよく生きる</b> (1) 源流思想 (ギリシア哲学と宗教) (2) 近代思想 (3) 現代思想						
9月	<b>3 民主社会の倫理と民主国家の基本原則</b> (1) 人間と尊厳 (2) 自由・権利と責任・義務 (3) 人権保障と国民主権						
10月	<b>4 日本国憲法と日本の政治機構</b> (1) 日本国憲法の成立 (2) 平和主義 (3) 基本的人権 (4) 国会と内閣 (5) 司法権 (6) 地方自治 (7) 政党と選挙 (4) 戦後日本の政治						
11月	<b>5 現代の経済社会</b> (1) 経済社会の理論 (2) 市場原理と景気変動 (3) 企業 (4) 金融と財政						
12月	<b>6 経済活動の現状と課題</b> (1) 日本経済のあゆみ (2) 中小企業と農業 (3) 消費者問題 (4) 雇用と労働 (5) 社会保障 (6) 公害と環境						
1月	<b>7 国際政治の動向と課題</b> (1) 主権国家と国際法 (2) 国際連合 (3) 国際政治のあゆみ (4) 軍縮 (5) 民族問題 (6) 排外主義と国際貢献						
2月	<b>7 国際経済の動向と課題</b> (1) 国際分業と貿易 (2) 外国為替 (3) 国際経済のあゆみ (4) 資源ナショナリズム						
3月	(4) グローバル経済 (5) 金融資本主義 (6) 南北問題と南南問題 (7) 環境保全と経済						

教科 科目	世界史探究	学 年	5年文系 (選択者)	単 位	3単位	担 当	下川 徹也
<p><b>【科目の概要】</b> ソ連邦のウクライナ侵攻は事態の収束が見えない中、国際社会は、自国中心主義の下、武装平和による安全保障への回帰が顕著となっている一方で、地球環境の破壊が一体化して取り組むべき待ったなしの課題となっている。このような国際社会において求められるのは、国家間、個人間の多様性を尊重しつつ、日々起こる諸事象を、対話を通して、自分とは異なる他者と協働して意味づけながら、課題を共有し、問題解決の糸口を見つけ、改善に向けた行動を模索する力である。5学年の「世界史探求」では、その誕生から現代まで、特色ある文明を生み出し、交流と再編を繰り返しながら、地球世界を構築してきた人類の歴史を学ぶ。取り扱う個々の歴史的事象を大きな歴史の流れの中で理解し、その意義を歴史の流れに位置付け、多角的な視点で考察し、その成果と課題を検証し、結果を表現し、他者との建設的な議論を通じてよりよい未来を描いていく科目である。</p>							
<p><b>【育成をめざす学力】</b></p> <p>(知識) 世界史事象を地理的条件や日本との関連付けながら理解し、まとめる力。  (技能) 世界史事象に関する図版・文献・統計資料を効果的に活用して復元する力。  (思考・判断) 世界史事象を大きな歴史の流れの中で意味づけ、成果と課題を評価する力。  (表現) 現代社会に生きる一員として何をなすべきかを考えていく問題解決力や判断力・洞察力。</p>							
<p><b>【評価基準・評価項目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる (社A①)</li> <li>・基本用語同士の関係を図式化して歴史事象を理解し、整理できる (社A②)</li> <li>・歴史事象を大きな歴史に意味づけ、他事象と比較して地域的・時代的特殊性・普遍性を判断できる (社B①②)</li> <li>・各地域・時代の「人間・社会認識」や現代的課題との関連から、歴史事象について評価できる (社B③)</li> <li>・歴史事象の課題を発見し、解決策を考え、その結論を提示できる。(社C①～⑤)</li> <li>・歴史事象に関する図版、地図、グラフ、文章等の資料から、歴史事象を理解できる (社A④)</li> <li>・歴史事象の成果と課題を図版、地図、グラフ、文章等の資料を活用して表現できる (社B④, C①～⑤)</li> <li>・歴史事象の成果と課題について、他者と建設的な議論ができる (社A⑤, B⑤, C⑥)</li> <li>・歴史事象の学習を通じて、歴史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる (社C⑦)</li> </ul>							
<p><b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b></p>							
4月	<b>1 諸地域の特質の形成</b> (1)古代オリエント文明 (2)古代インド文明 (3)古代中国文明						
5月	(4)中央アジア (5)東アジア文化圏 (6)仏教とインド古典文化 (7)西アジアの帝国 (8)古代ギリシア						
6月	(9)ローマの地中海統一 (10)キリスト教世界の成立と発展 <b>2 諸地域の交流と再編</b> (1)イスラム政権 (2)イスラム世界の拡大と接触 (3)西ヨーロッパ封建社会の成立						
7月	(4)東ヨーロッパ世界 (5)ヨーロッパ封建社会の動揺 (6)東アジアの再編						
8月	(7)モンゴル帝国の世界支配 (8)明清帝国の動向 (9)オスマン朝とサファヴィ朝 (10)ムガル朝						
9月	(11)ルネサンスと宗教改革 (12)大航海時代 (13)ヨーロッパ主権国家の成立と発展						
10月	(14)科学革命と啓蒙思想 <b>3 諸地域の結合と変容</b> (1)産業革命 (2)アメリカ独立革命 (3)フランス革命とナポレオン						
11月	(4)ウィーン体制 (5)19世紀のイギリス・フランス (6)19世紀ヨーロッパの再編 (7)アメリカの発展						
12月	(8)19世紀欧米文化 (9)西アジアの変容 (10)南アジア・東南アジアの植民地化 (11)東アジアの動揺						
1月	(12)帝国主義の成立と世界分割 (13)アジア諸国の変革と民族運動 (13)第一次世界大戦とロシア革命 (14)ヴェルサイユ体制下の欧米 (15)アジア・アフリカの自立 (16)世界恐慌						
2月	(17)第二次世界大戦 (18)大戦の終結と国際連合 <b>4 地球世界の課題</b> (1)冷戦の展開 (2)非同盟主義 (3)国際政治の多様化 (4)産業構造と経済体制の変容						
3月	(5)冷戦の終結 (6)冷戦後の世界 (7)現代の世界 (8)現代文化						

教科 科目	日本史探究	学 年	5年文系 (選択者)	単 位	3単位	担 当	古賀 倫子
<p>【科目の概要】国際化の進んだ今日では、世界各地で人々と接する機会が増え、自分とは異なる文化を理解する努力が求められています。異文化を理解し、異文化との共生をめざすためには正しい歴史認識をもつことが大切です。そこで、5学年では、中学で学んだ歴史を基礎に、自国の歴史認識を深めるため、日本列島誕生から近世までの日本が歩んできた歴史を、古代中国・朝鮮半島や中世以降のヨーロッパとの関係を把握しながら、日本の文化と伝統の特色を理解し、「歴史的なできごと」に対しての多角的な考察をふまえて、歴史に対する考えを深めていきます。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の文化と伝統と現代日本の課題を理解するための日本史の基本的事項を習得する力。</li> <li>史料および資料の意味、さらに将来の予測を読み取る力</li> <li>歴史の時系列の理解、歴史の過程に見られる「原因・結果・影響」を整理する力</li> <li>歴史的な見方や考え方から現代への問題を考えることができる力</li> <li>学習活動を通じ、日本史の学習の意義を理解し、学習への興味・関心を喚起する力</li> <li>学習活動を通じ、自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力</li> </ul>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる (社A①)</li> <li>基本用語同士の関係を図式化して歴史事象を理解し、整理できる (社A②)</li> <li>歴史事象を大きな歴史に意味づけ、他事象と比較して地域的・時代的特殊性・普遍性を判断できる (社B①②)</li> <li>各地域・時代の「人間・社会認識」や現代的課題との関連から、歴史事象について評価できる (社B③)</li> <li>歴史事象の課題を発見し、解決策を考え、その結論を提示できる。(社C①～⑤)</li> <li>歴史事象に関する図版、地図、グラフ、文章等の資料から、歴史事象を理解できる (社A④)</li> <li>歴史事象の成果と課題を図版、地図、グラフ、文章等の資料を活用して表現できる (社B④, C①～⑤)</li> <li>歴史事象の成果と課題について、他者と建設的な議論ができる (社A⑤, B⑤, C⑥)</li> <li>歴史事象の学習を通じて、歴史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる (社C⑦)</li> </ul>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月 5月	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成	1. 文化のはじまり 2. 農耕社会の成立 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷 1. 律令国家への道 2. 平城京の時代 3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容					
6月 7月	第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権 1. 鎌倉幕府の成立 2. 武士の社会 3. モンゴル襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化					
8月 9月	第7章 武家社会の成長	1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場	第8章 1. 織豊政権 2. 桃山文化				
10月	第9章 幕藩体制の成立と展開 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造 3. 幕政の安定 4. 経済の発展 5. 元禄文化						
11月	第10章 幕藩体制の動揺	1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化					
12月	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開	1. 開国と幕末の動乱 2. 幕府の滅亡と新政府の発足 1. 明治維新と富国強兵 2. 立憲国家の成立 1. 日清・日露戦争と国際関係 2. 第一次世界大戦と日本 3. ワシントン体制					
1月	第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦	1. 近代産業の発展 2. 近代文化の発達 3. 市民生活と大衆文化 1. 恐慌の時代 2. 軍部の台頭 3. 第二次世界大戦					
2月	第16章 占領下の日本	1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講和					
3月	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	1. 55年体制 2. 経済復興から高度経済成長へ 1. 経済大国への道 2. 冷戦の終結と日本社会の変容					

教科・科目	数学・数学Ⅱ	学 年	5年文系 (進学コース)	単 位	4単位	担 当	出来 三博
<p>【科目の概要】数学Ⅱは高等数学の最も基礎となる重要な科目である。内容は、「整式」「代数方程式の解の理論」「代数と幾何学」という代数学の基礎、「初等関数(指数・対数関数)」「微分積分」という解析学の基礎を担う科目である。複素数まで数の世界を拡張し、方程式の解を発展的にとらえ高次方程式を解いたり、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理し活用できるようにする。また三角関数や指数関数、対数関数などの関数についての理解を深めそれらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。最終章では、微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。</p>							
<p>【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。</p> <p>①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、<u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> (A)</p> <p>②色々な事象を数学的に考察して的確に<u>情報を取り出す力</u> (C)、<u>取り出した情報を表現できる力</u> (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け<u>的確に問題を解決できる力</u> (BDE)・<u>表現できる力</u> (F)</p> <p>③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ<u>論理的に考える力</u> (D)</p> <p>④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に<u>活用する力</u> (G)</p>							
<p>【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することが出来るか)</p> <p><b>高次方程式</b> ①「多項式空間」と「数の空間」の違い ②剰余定理・因数定理 ③次数降下法 ④代数学の基本定理 ⑤n乗根(円周等分多項式) <b>図形と方程式</b> ①「座標平面」の発明と「代数方程式」の関係 ②「点」「直線」「円」「点と線の関係」「2直線の関係」「円と直線の関係」「2円の関係」「共有点を通る直線・円」③「軌跡」の考え方と「グラフ」の考え方 ⑤「領域」 ⑥線形計画法 <b>三角関数</b> ①角の拡張(一般角、弧度法) ②三角比の拡張(定義) ③三角関数の意味 ④三角関数の性質(相互関係・周期)⑤三角関数のグラフ(グラフの平行移動・拡大縮小の完全把握) ⑦三角関数の性質(周期・対称性)⑧三角方程式・不等式 ⑨正弦・余弦・正接の加法定理 ⑩2倍角・半角の定理 ⑪三角関数の合成 ※2直線のなす角・扇形の面積などへの応用も特化する <b>指数関数と対数関数</b> ①指数と対数の関係 ②指数の自然数から実数への拡張 ③指数関数の定義と性質 ④指数方程式・不等式 ⑤逆関数 ⑥指数関数の逆関数としての対数関数 ⑦対数関数の性質 ⑦対数法則 ⑧対数方程式・不等式 ⑨常用対数とその活用 <b>微分と積分Ⅱ</b> ①「微分」の基本的な考え方(ライプニッツ&amp;ニュートン) ②「平均変化率」の定義→「極限」概念の導入→「変化率」「微分係数」(接線の傾き)の定義→「導関数」の定義 ③「微分」の定義 ④「微分」の線形性 ⑤形式微分 ⑥「接線」導 ⑦関数の「増減表」とグラフ ⑧関数の最大・最小問題 ⑨方程式と不等式の「微分」による解析 ⑩「原始関数」「不定積分」 ⑪積分と面積 ⑫「微積分の基本定理」</p>							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月 5月	<p>第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解(複素数とその計算、2次方程式の解、解と係数の関係) 第2節 高次方程式(剰余の定理と因数定理、高次方程式) 章末問題</p>						
6月	<p>第3章 図形と方程式 第1節 点と直線(直線の方程式、2直線の関係、2直線の交点を通る直線、補充問題) 第2節 円(円の方程式、円と直線、2つの円) 第3節 軌跡と領域(軌跡と方程式)</p>						
7月 8月 9月	<p>第3節 軌跡と領域(不等式を表す領域) 章末問題 第4章 三角関数 第1節 三角関数(角の拡張、三角関数、グラフ、性質、方程式・不等式、補充問題) 第2節 加法定理(三角関数の加法定理、加法定理の応用、和と積の公式) 章末問題</p>						
10月 11月	<p>第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数(指数の拡張、指数関数、補充問題) 第2節 対数関数(対数とその性質・対数関数・常用対数、補充問題) 章末問題 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数(微分係数・導関数とその計算・接線の方程式)</p>						
12月 1月 2月 3月	<p>第2節 関数の値の変化(関数の増減と極値・関数の増減・グラフの応用) 第3節 積分法(不定積分・定積分・図形の面積と定積分)</p>						

教科・科目	数学・数学Ⅱ	学 年	5年文系 (数選コース)	単 位	4単位+1	担 当	脇田 祥弥
<p>【科目の概要】数学Ⅱは高等数学の最も基礎となる重要な科目である。内容は、「整式」「代数方程式の解の理論」「代数と幾何学」という代数学の基礎、「初等関数(指数・対数関数)」「微分積分」という解析学の基礎を担う科目である。複素数まで数の世界を拡張し、方程式の解を発展的にとらえ高次方程式を解いたり、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理し活用できるようにする。また三角関数や指数関数、対数関数などの関数についての理解を深めそれらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。最終章では、微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。</p>							
<p>【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。</p> <p>①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、<u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> (A)  ②色々な事象を数学的に考察して<u>的確に情報を取り出す力</u> (C)、<u>取り出した情報を表現できる力</u> (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け<u>的確に問題を解決できる力</u> (BDE)・<u>表現できる力</u> (F)  ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ<u>論理的に考える力</u> (D)  ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力 (G)</p>							
<p>【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することが出来るか)</p> <p><b>式と証明</b> ①3次式の展開と因数分解 ②二項定理 ③整式の割り算 ④分数式 ⑤恒等式 ⑥等式・不等式の証明 <b>高次方程式</b> ①「多項式空間」と「数の空間」の違い ②剰余定理・因数定理 ③次数降下法 ④代数学の基本定理 ⑤n乗根(円周等分多項式) <b>図形と方程式</b> ①「座標平面」の発明と「代数方程式」の関係 ②「点」「直線」「円」「点と線の関係」「2直線の関係」「円と直線の関係」「2円の関係」「共有点を通る直線・円」③「軌跡」の考え方と「グラフ」の考え方 ⑤「領域」 ⑥線形計画法 <b>三角関数</b> ①角の拡張(一般角、弧度法) ②三角比の拡張(定義) ③三角関数の意味 ④三角関数の性質(相互関係・周期) ⑤三角関数のグラフ(グラフの平行移動・拡大縮小の完全把握) ⑦三角関数の性質(周期・対称性) ⑧三角方程式・不等式 ⑨正弦・余弦・正接の加法定理 ⑩2倍角・半角の定理 ⑪三角関数の合成 ※2直線のなす角・扇形の面積などへの応用も特化する <b>指数関数と対数関数</b> ①指数と対数の関係 ②指数の自然数から実数への拡張 ③指数関数の定義と性質 ④指数方程式・不等式 ⑤逆関数 ⑥指数関数の逆関数としての対数関数 ⑦対数関数の性質 ⑦対数法則 ⑧対数方程式・不等式 ⑨常用対数とその活用 <b>微分と積分Ⅱ</b> ①「微分」の基本的な考え方(ライブニッツ&amp;ニュートン) ②「平均変化率」の定義→「極限」概念の導入→「変化率」「微分係数」(接線の傾き)の定義→「導関数」の定義 ③「微分」の定義 ④「微分」の線形性 ⑤形式微分 ⑥「接線」 ⑦関数の「増減表」とグラフ ⑧関数の最大・最小問題 ⑨方程式と不等式の「微分」による解析 ⑩「原始関数」「不定積分」 ⑪積分と面積 ⑫「微積分の基本定理」</p>							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5月	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第2節 等式・不等式の証明 数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 第2節 高次方程式						
6・7月	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域						
8月	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第1節 三角関数						
9月	第2節 加法定理 数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数(指数の拡張・指数関数)						
10月	第2節 対数関数(対数とその性質・対数関数・常用対数) 数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数						
11月	(微分係数・導関数とその計算・接線の方程式) 第2節 関数の値の変化(関数の増減と極大・極小・関数の増減・グラフの応用)						
12月	第3節 積分法(不定積分・定積分・図形の面積と定積分)						
1月	数学B 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列						
2月	第3節 漸化式と数学的帰納法 数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測						
3月	数ⅡBの総合演習						



教科 科目	数学Ⅱ・Ⅲ	学年	5年理系	単位	4単位+1	担当	宮原 望
<p>【科目の概要】数学Ⅱ・数学Ⅲは高等数学の最も基礎となる重要な科目である。内容は、「整式」「代数方程式の解の理論」「代数と幾何学」という代数学の基礎、「初等関数(指数・対数関数)」「微分積分」という解析学の基礎を担う科目であり、理系としては特に「知識」「思考方法」の何れも高度な学力を身につけなければならない。</p>							
<p>【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。</p> <p>①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、<u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u>(A)</p> <p>②色々な事象を数学的に考察して的確に<u>情報を取り出す力</u>(C)、<u>取り出した情報を表現できる力</u>(C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け<u>的確に問題を解決できる力</u>(BDE)・<u>表現できる力</u>(F)</p> <p>③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ<u>論理的に考える力</u>(D)</p> <p>④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力(G)</p>							
<p>【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することが出来るか)</p> <p><b>式と証明</b> ①展開と因数分解(二項定理) ②証明とは何か ③証明方法 ④不等式の性質 ⑤不等式と最大・最小問題の関わり ⑥(相加平均)≧(相乗平均)の関係 ⑦コーシー・シュワルツの不等式 <b>複素数と方程式</b> ①複素数とその計算 ②2次方程式の解 ③解と係数の関係 ④「多項式空間」と「数の空間」の違い ⑤剰余定理・因数定理 ⑥組み立て除法 ⑦次数降下法 ⑧代数学の基本定理 ⑨n乗根(円周等分多項式) <b>図形と方程式</b> ①「座標平面」と「代数方程式」の関係 ②「点」「直線」「円」「点と線の関係」「2直線の関係」「円と直線の関係」「2円の関係」「共有点を通る直線・円」③「軌跡」の考え方 ④「領域」 ⑤線形計画法 <b>三角関数</b> ①角の拡張(一般角、弧度法) ②三角比の拡張(定義) ③三角関数の意味 ④三角関数の性質(相互関係・周期) ⑤三角関数のグラフ(グラフの平行移動・拡大縮小の完全把握) ⑦三角関数の性質(周期・対称性) ⑧三角方程式・不等式 ⑨正弦・余弦・正接の加法定理 ⑩2倍角・半角の定理 ⑪三角関数の合成 ⑫和積変換・積和変換 ※2直線のなす角・扇形の面積などへの応用も特化する <b>指数関数と対数関数</b> ①指数と対数の関係 ②指数の自然数から実数への拡張 ③指数関数の定義と性質 ④指数方程式・不等式 ⑤逆関数 ⑥指数関数の逆関数としての対数関数 ⑦対数関数の性質 ⑧対数法則 ⑨対数方程式・不等式 ⑩常用対数とその活用 <b>微分法と積分法Ⅱ</b> ①「微分」の基本的な考え方(ライプニッツ&amp;ニュートン) ②「平均変化率」の定義→「極限」概念の導入→「変化率」「微分係数」(接線の傾き)の定義→「導関数」の定義 ③「微分」の定義 ④「微分」の線形性 ⑤形式微分 ⑥「接線」 ⑦導関数と増減表とグラフ ⑧関数の最大・最小問題 ⑨方程式と不等式の「微分」による解析 ⑩「原始関数」「不定積分」 ⑪積分と面積 ⑫「微積分の基本定理」 ⑬回転体の体積 <b>微分法Ⅲ</b> ①極限 ②関数の極限・不定形 ③導関数の再定義(無限小量) ④微分の基本的性質 ⑤合成関数の微分 ⑥ネイピア数の定義 ⑦指数関数・対数関数・三角関数の微分 ⑧符号表から増減表へ</p>							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	数Ⅱ 第1章 式と計算						
5月	数Ⅱ 第2章 複素数と方程式						
6月	数Ⅱ 第4章 三角関数						
7月	数Ⅱ 第3章 図形と方程式						
8月							
9月	数Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 第2節 対数関数						
10月	数Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化						
11月							
12月	数Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第3節 積分法						
1月	数Ⅲ 第4章 第2節 関数の極限						
2月 3月	数Ⅲ 第5章 微分法						

教科 科目	数学B	学 年	5年文系 (進学コース)	単 位	2単位	担当	矢野 美保
<p>【科目の概要】数学Bでは「数列」と「統計的な推測」を扱う。「数列」では簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解しそれらを用いて数学的に考察し処理できるようにする。「統計的な推測」では母集団と標本、標本平均の分布と正規分布の関係などを理解し、具体例を通して統計的な推測の考えを身に付け、それを用いて標本のもつ傾向から母集団のもつ傾向を推測できるようにする。</p>							
<p>【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。</p> <p>①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、<u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> (A)  ②色々な事象を数学的に考察して的確に<u>情報を取り出す力</u> (C)、<u>取り出した情報を表現できる力</u> (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け<u>確に問題を解決できる力</u> (BDE)・<u>表現できる力</u> (F)  ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ<u>論理的に考える力</u> (D)  ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に<u>活用する力</u> (G)</p>							
<p>【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することが出来るか)</p> <p><b>数列Ⅱ</b> ①「数列」の理解と表現方法 ②等差数列(一般項・漸化式・和) ③等比数列(一般項・漸化式・和) ④自然数の平方和・立方和 ⑤<math>\Sigma</math>記号 ⑥ホイヘンスの分解 ⑦群数列 ⑧階差数列 ⑨<math>S_n \rightarrow a_n</math> ⑩漸化式 ⑪数学的帰納法 <b>統計的な推測</b> ①確率変数と確率分布 ②確率変数の期待値と分散 ③確率変数の和と積 ④二項分布 ⑤正規分布 ⑥母集団と標本 ⑦標本平均の分布 ⑧推定 ⑨仮説検定</p>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月	第1章 数列						
5月	第1節 等差数列と等比数列						
6月	第2節 いろいろな数列						
7月	第2章 漸化式と数学的帰納法						
8月	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式						
9月	第1節 点と直線						
10月	第2節 円						
11月	第3節 軌道と領域 数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布						
12月	第2節 統計的な推測						
1月	数ⅡBの総合演習						
2月	数ⅡBの総合演習						
3月	数ⅡBの総合演習						

教科 科目	数学B	学 年	5年文系 (特進コース)	単 位	2単位	担 当	宮原 望
<p>【科目の概要】数学Bでは「数列」と「統計的な推測」を扱う。「数列」では簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解しそれらを用いて数学的に考察し処理できるようにする。「統計的な推測」では母集団と標本、標本平均の分布と正規分布の関係などを理解し、具体例を通して統計的な推測の考えを身に付け、それを用いて標本のもつ傾向から母集団のもつ傾向を推測できるようにする。</p>							
<p>【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。</p> <p>①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、<u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> (A)</p> <p>②色々な事象を数学的に考察して的確に<u>情報を取り出す力</u> (C)、<u>取り出した情報を表現できる力</u> (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け<u>的確に問題を解決できる力</u> (BDE)・<u>表現できる力</u> (F)</p> <p>③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ<u>論理的に考える力</u> (D)</p> <p>④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に<u>活用する力</u> (G)</p>							
<p>【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することが出来るか)</p> <p><b>数列Ⅱ</b> ①「数列」の理解と表現方法 ②等差数列(一般項・漸化式・和) ③等比数列(一般項・漸化式・和) ④自然数の平方和・立方和 ⑤<math>\Sigma</math>記号 ⑥ホイヘンスの分解 ⑦群数列 ⑧階差数列 ⑨<math>S_n \rightarrow a_n</math> ⑩漸化式 ⑪数学的帰納法 <b>統計的な推測</b> ①確率変数と確率分布 ②確率変数の期待値と分散 ③確率変数の和と積 ④二項分布 ⑤正規分布 ⑥母集団と標本 ⑦標本平均の分布 ⑧推定 ⑨仮説検定</p>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4・5月	<p>数学Ⅱ 第1章 式と照明 第2節 等式・不等式の証明</p> <p>数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 第2節 高次方程式</p>						
6・7月	<p>数学Ⅱ 第3章 図形と方程式</p> <p>第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域</p>						
8月	<p>数学Ⅱ 第4章 三角関数</p> <p>第1節 三角関数</p>						
9月	<p>第2節 加法定理</p> <p>数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数</p> <p>第1節 指数関数(指数の拡張・指数関数)</p>						
10月	<p>第2節 対数関数(対数とその性質・対数関数・常用対数)</p> <p>数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法</p> <p>第1節 微分係数と導関数</p>						
11月	<p>(微分係数・導関数とその計算・接線の方程式)</p> <p>第2節 関数の値の変化(関数の増減と極大・極小・関数の増減・グラフの応用)</p>						
12月	<p>第3節 積分法(不定積分・定積分・図形の面積と定積分)</p>						
1月	<p>数学B 第1章 数列</p> <p>第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列</p>						
2月	<p>第3節 漸化式と数学的帰納法</p> <p>数学B 第2章 統計的な推測</p> <p>第1節 確率分布 第2節 統計的な推測</p>						
3月	<p>数ⅡBの総合演習</p>						

教科 科目	数学B・C	学年	5年理系	単位	2単位+1	担当	宮原 望
<p>【科目の概要】数学Bでは「数列」と「統計的な推測」を扱う。「数列」では簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解しそれらを用いて数学的に考察し処理できるようにする。「統計的な推測」では母集団と標本、標本平均の分布と正規分布の関係などを理解し、具体例を通して統計的な推測の考えを身に付け、それを用いて標本のもつ傾向から母集団のもつ傾向を推測できるようにする。数学Cでは「ベクトル」を扱う。ベクトルは19世紀の後半から、物理と数学の2つの学問の流れの中で誕生した抽象概念で、高校の教材としては歴史的に最も新しいものの一つである。ベクトルについての基本的な概念を理解し、図形の性質や関係をベクトルを用いて表現したり、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。</p>							
<p>【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。</p> <p>①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、<u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> (A)</p> <p>②色々な事象を数学的に考察して<u>的確に情報を取り出す力</u> (C)、<u>取り出した情報を表現できる力</u> (C)、<u>熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力</u> (BDE)・<u>表現できる力</u> (F)</p> <p>③数学的な見方や考え方を身に付け、<u>事象を数学的にとらえ論理的に考える力</u> (D)</p> <p>④数学的な見方や考え方のよさを認識し、<u>それらを事象の考察に活用する力</u> (G)</p>							
<p>【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することが出来るか)</p> <p><b>数列Ⅱ</b> ①「数列」の理解と表現方法 ②等差数列(一般項・漸化式・和) ③等比数列(一般項・漸化式・和) ④自然数の平方和・立方和 ⑤<math>\Sigma</math>記号 ⑥ホイヘンスの分解 ⑦群数列 ⑧階差数列 ⑨<math>S_n \rightarrow a_n</math> ⑩漸化式 ⑪数学的帰納法 <b>統計的な推測</b> ①確率変数と確率分布 ②確率変数の期待値と分散 ③確率変数の和と積 ④二項分布 ⑤正規分布 ⑥母集団と標本 ⑦標本平均の分布 ⑧推定 ⑨仮説検定 <b>ベクトル</b> ①ベクトルの概念の理解と表現方法 ②零・逆ベクトルと演算の導入 ③位置ベクトルと分解 ④一次独立と一次従属 ⑤内積の定義と性質 ⑥分点の位置ベクトル ⑦直線のベクトル方程式 ⑧ベクトルの表す領域 ⑨平面ベクトルの空間への拡張(空間ベクトル) ⑩空間座標 ⑪空間の図形の代数方程式(面・球) ⑫「直線と直線」「平面と直線」「球と直線」「球と平面」</p>							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	数B 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列						
5月							
6月	数B 第1章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法						
7月	数C 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算						
8月							
9月	数C 第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形						
10月	数C 第2章 空間のベクトル						
11月							
12月	数B 第2章 統計的な推測						
1月							
2月	I A II B問題演習						
3月							

教科 科目	物理基礎	学 年	5年	単 位	2単位	担 当	井上 雄二
<p><b>【科目の概要】</b>  自然の事物や現象についての理解を深め、人間生活とのかかわりを考えることを主眼において、物理学的に探究する能力と態度を育て、同時に基本的な概念や原理・法則を理解する。身のまわりの物理的な現象を簡略化した図式（モデル化）にすることができる能力を身につける。そして、そのモデルから簡単な数式（文字式）で現象を書きあらわし、説明できるようにする。</p>							
<p><b>【育成をめざす学力】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 身近な現象から先端技術にいたるまで興味や関心をもって、科学的に物事をとらえようとする力</li> <li>(2) 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力</li> <li>(3) 知識と与えられた条件から予想する力</li> <li>(4) 現象のモデル化、グラフ化を行い、文字式を用いて数的処理をし、科学的に考えることができる力</li> <li>(5) 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解し、分析したり考察したりする力</li> <li>(6) 物理的な探求を行うために必要とされる実験技術</li> </ol>							
<p><b>【評価基準・評価項目】</b></p> <p><b>知識・技能</b>…日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。（評価材料：定期考査、小テスト）</p> <p><b>思考・判断・表現</b>…物体の運動と様々なエネルギーから問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。（評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、調べ学習や研究作品、プレゼンテーション）</p> <p><b>主体的に取り組む態度</b>…物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。（評価材料：授業中の取り組みや態度、振り返りシート、レポート、授業ノート、調べ学習や研究作品）</p>							
<p><b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b></p>							
4月	<b>第1編 物体の運動</b> 1章 運動の表し方：等速直線運動、速度と変位、速度の合成、相対速度、						
5月	加速度、(ベクトルの導入)、等加速度直線運動、自由落下運動、						
6月	鉛直投げ上げ運動、鉛直投げ上げ運動						
7月	2章 力：力の合成・分解、力のつり合い、作用反作用						
8月	摩擦力、圧力と浮力						
9月	3章 運動の法則：慣性の法則、運動の法則、運動方程式、いろいろな力を受ける運動						
10月	<b>第2編 エネルギー</b> 1章 運動とエネルギー：仕事、仕事の原理と仕事率						
11月	運動とエネルギー：運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの保存の法則						
12月	2章 熱とエネルギー：熱と温度、熱容量と比熱、物質の三態						
1月	熱とエネルギー：熱と仕事、熱と仕事の変換						
2月	<b>第3編 波</b> 1章 波の性質：波と媒質の運動、重ね合わせの原理						
3月	2章 音：音の性質						

教科 科目	物理	学 年	5年理選	単 位	2.5単位	担 当	井上 雄二
<b>【科目の概要】</b> 自然の事物や現象についての理解を深め、人間生活とのかかわりを考えることを主眼において、物理学的に探究する能力と態度を育て、同時に基本的な概念や原理・法則を理解する。物理では、身のまわりの物理的な現象を簡略化した図式（モデル）化し、そのモデルから簡単な数式（文字式）で書きあらわすことで、実際に物理現象を数式によって説明できるようにする。							
<b>【育成をめざす学力】</b> (1) 身近な現象から先端技術にいたるまで興味や関心をもって、科学的に物事をとらえようとする力 (2) 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力 (3) 実験における技能を習得し、その結果を科学的な考察を交え、文章や図・グラフ等を用いて正しく表現する力 (4) 知識と与えられた条件から予想する力 (5) 現象のモデル化、グラフ化を行い、文字式を用いて数的処理をし、科学的に考えることができる力 (6) 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解し、分析したり考察したりする力							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <b>知識・技能</b> …物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。（評価材料：定期考査、小テスト） <b>思考・判断・表現</b> …物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。（評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、調べ学習や研究作品、プレゼンテーション） <b>主体的に取り組む態度</b> …物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。（評価材料：授業中の取り組みや態度、振り返りシート、レポート、授業ノート、調べ学習や研究作品）							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	<b>3-1 波の性質（波と媒質の運動、波の伝わり方）</b>						
5月	Ⅲ - ① 波の伝わり方						
6月	<b>3-2 音（音の性質、発音体の振動と共振・共鳴）</b>						
7月	Ⅲ - ② 音の伝わり方（音の伝わり方・音のドップラー効果）						
8月	Ⅲ - ③ 光（光の性質、レンズ、光の干渉と回折）						
9月	Ⅲ - ① 波の伝わり方（正弦波、波の伝わり方）						
10月	<b>4-1 電気、Ⅳ - ② 電流（電気の性質、電流と電気抵抗、電気とエネルギー、直流回路）</b>						
11月	Ⅰ - ① 平面内の運動（速度、加速度、落体の運動）						
12月	Ⅰ - ② 剛体（力のつりあいと重心）						
1月	Ⅰ - ③ 運動量の保存（運動量と力積、運動量保存則、反発係数）						
2月	Ⅰ - ④ 円運動と万有引力（等速円運動、慣性力、単振動、万有引力）						
3月	Ⅱ - ① 気体のエネルギーと状態変化（気体の法則、気体分子の運動、気体の状態変化）						

教科 科目	化学	学 年	5年理選	単 位	2.5単位	担 当	斎藤 秀樹
<b>【科目の概要】</b> 化学では、理論化学・無機物質・有機化合物を学びます。理論化学で、基本的な概念や原理・法則への理解を深めることで、無機物質や有機化合物を化学的な視点でとらえることができます。これらの学びを通して、日常生活における化学について興味や疑問をもち、思考する習慣をつけましょう。さらに、化学と社会との関わりや、化学の役割について考えていきましょう。							
<b>【育成をめざす学力】</b> (1) 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に考える力 (2) 文章・図・グラフを読み取る力 (3) 自身の考えや思考プロセスを適切な方法で表現する力 (4) 興味関心をもって学び、自らを振り返り学力向上に努める姿勢 (5) 他者を尊重し、共同学習する姿勢 (6) 安全に配慮し、実験・観察を行う姿勢							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <b>知識・技能</b> …化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。(評価材料：定期考査、小テスト、実技テスト) <b>思考・判断・表現</b> …化学的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。(評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、調べ学習や研究作品、プレゼンテーション) <b>主体的に取り組む態度</b> …化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。(評価材料：授業中の取り組みや態度、振り返りシート、レポート、理科ノート、調べ学習や研究作品、小テスト、プレゼンテーション)							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	序章 科学と物質 1章 物質の状態と平衡 1節 状態変化						
5月	2節 固体の構造						
6月	3節 気体の性質						
7月	4節 溶液						
8月	2章 物質の変化と平衡 1節 化学反応と熱・光エネルギー						
9月	酸化還元反応 2節 化学反応と電気エネルギー						
10月	2節 化学反応と電気エネルギー						
11月	3節 反応の速さとしくみ						
12月	4節 化学平衡						
1月	4節 化学平衡						
2月	3章 無機物質 1節 元素と周期表						
3月	2節 非金属元素						

教科 科目	生物	学 年	5年理選	単 位	2.5単位	担 当	廣田 裕枝
<b>【科目の概要】</b> 生物学は、私たちにとって最も身近な科学です。なぜならそれは、生物としての自分自身を知ることであり、そこから見えてくる普遍的な生命現象を理解することだからです。最近の科学の進歩はめざましく、医療や遺伝子工学、環境科学の技術は一般人の理解を超えているように思われがちです。しかし、生物基礎で学んだことを基盤に、生物の授業の中でさらに深く知識や原理を学んでいくことによって、それらを理解し、身近なものとして考えられるようになるはずです。ぜひ、身の回りの自然現象や最先端の科学に興味を持ち、楽しんで授業を受けてください。							
<b>【育成をめざす学力】</b> (1) 興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。知識と与えられた条件から予想する力。 (2) 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。 (3) 学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。 (4) 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力分析したり考察したりする力。 (5) 根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <b>知識・技能</b> …生物学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。（評価材料：定期考査、小テスト、実技テスト） <b>思考・判断・表現</b> …生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。（評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、調べ学習や研究作品、プレゼンテーション） <b>主体的に取り組む態度</b> …生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。（評価材料：授業中の取り組みや態度、振り返りシート、レポート、授業ノート、調べ学習や研究作品、小テスト、プレゼンテーション）							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	第1部 生物の進化	第1章 生物の進化					
5月		第2章 有性生殖と遺伝的多様性	第3章 進化のしくみ				
6月	第2部 生命現象と物質	第4章 生物の系統	第5章 生命と物質				
7月		第5章 生命と物質	第6章 代謝				
8月		第6章 代謝					
9月		第6章 代謝					
10月	第3部 遺伝情報の発現と発生	第7章 遺伝現象と物質					
11月		第7章 遺伝現象と物質					
12月		第8章 発生と遺伝子の発現					
1月		第8章 発生と遺伝子の発現					
2月		第9章 バイオテクノロジー					
3月	第4部 生物の環境応答	第10章 刺激の受容と反応					



教科 科目	理科演習	学 年	5年文選	単 位	2単位	担 当	(化基) 榎本 紗英 (生基) 廣田 裕枝
----------	------	--------	------	--------	-----	--------	--------------------------

【科目の概要】

5年の理科演習では、化学基礎・生物基礎の内容の演習をおこない、大学入試に備えてさらに理解を深めていくことを目指します。

【育成をめざす学力】

- (1) 興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。知識と与えられた条件から予想する力。
- (2) 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。
- (3) 学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。
- (4) 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力分析したり考察したりする力。
- (5) 根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。
- (6) 複数の単元で学習した内容を組み合わせて活用する力

【評価基準・評価項目】

**知識・技能**…物質とその変化、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。（評価材料：定期考査、小テスト、実技テスト）

**思考・判断・表現**…物質とその変化、生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。（評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、プレゼンテーション、調べ学習や研究作品）

**主体的に取り組む態度**…物質とその変化、生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。（評価材料：授業中の取り組みや態度、振り返りシート、レポート、授業ノート、調べ学習や研究作品、小テスト）

【年間指導単元・内容と学習活動】

	化学基礎	生物基礎
4月	3章 酸化還元反応 反応の量的関係	新編アクセス生物基礎 1-1. 生物の多様性と共通性
5月	金属のイオン化傾向、電池	1-2. 生物と細胞
6月	金属の製錬	1-3. 生物とエネルギー
7月	ベストフィット 1-1 物質の探求	2-1. 遺伝情報とDNA
8月	1-2 物質の構成	2-2. DNAの複製と分配
9月	2-1 イオン結合	(模擬試験演習) 2-3. 遺伝情報とタンパク質の合成
10月	2-2 共有結合	3-1. 生物の体内環境
11月	2-3 金属結合	(模擬試験演習) 3-2. 体内環境の維持のしくみ
12月	3-1 物質と化学反応式	3-3. 免疫
1月	3-1 物質と化学反応式	(模擬試験演習) 4-1. 植生の構造 4-2. 植生の移り変わり
2月	3-2 酸と塩基の反応式	(模擬試験演習) 4-3. 植生の分布と環境 4-4. 生態系と生物の多様性
3月	3-3 酸化還元反応	4-5. 生物多様性の保全

教科 科目	音楽Ⅱ	学 年	5年	単 位	2単位	担 当	佐野 智江
<b>【科目の概要】</b> 5年次より音楽は選択教科となり、授業は週1回2時間連続の形態をとります。本科目では、授業内容に歌唱、合奏、創作といった表現活動を多く取り入れています。このような活動を通し、積極的、意欲的に音楽を表現する楽しさを体験します。またその中に個性豊かな音楽表現が出来る機会を多く作っていきます。							
<b>【育成をめざす学力】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的、意欲的に音楽活動に携わる能力。</li> <li>・個性豊かに音楽表現が出来る能力。</li> </ul>							
<b>【評価基準・評価項目】</b> ○知識・技能：創意工夫を生かした歌唱、器楽、創作表現をするための知識や技能。音楽構造の理解。(確認テスト、実技テスト) ○思考・判断・表現：音楽作品の特徴を感じ取る思考力。歌唱、器楽、創作表現の工夫。(実技テスト、創作活動) ○主体的に取り組む態度：各活動に対する意欲。(授業中の取り組みや態度)							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	表現の楽しさを味わう	音楽基礎知識の復習					
5月	世界の歌に親しむ	創作活動					
6月	ミュージカルについて	ドイツ歌曲に親しむ	確認テスト	実技テスト			
7・8月	合唱・合奏活動						
9月	イタリア歌曲に親しむ	楽曲の種類について					
10月	ピアノの歴史	ピアノ協奏曲の鑑賞	オペラについて				
11・12月	音階について	合奏活動	確認テスト	実技テスト			
	クリスマス礼拝に向けて (ハレルヤコーラス)						
1月	音楽用語のまとめ	合唱・合奏活動					
2月	音楽理論	確認テスト	実技テスト	創作活動			
3月	1年間のまとめ						

教科 科目	美術 I	学 年	5 年	単 位	2 単位	担 当	服部 夏子
<b>【科目の概要】</b> 陰影と色彩を用いた表現の方法を学び、平面上における立体や空間表現の技術を習得します。さらに絵の具、筆、紙、キャンバス等道具の組成を理解し、制作を通してそれらの特性を生かした表現方法を習得します。また鑑賞を通して絵画表現やデザイン表現の多様性を学びます。							
<b>【育成をめざす学力】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民族・地域・時代による価値の違いに興味関心を持ち理解する力</li> <li>・ 目標を設定し実現のために計画的に行動する力</li> <li>・ 道具・表現手段等を目的に応じて使いこなす力</li> <li>・ 表現することに意味を見出し、有効な表現手段を用いて計画的に表現する力</li> </ul>							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時代ごとの美術の特徴を理解し、それぞれの良さを味わうことができる（知識・技能）</li> <li>・ 生活を美しく豊かにするデザインの働きを理解し、その良さを味わうことができる（知識・技能）</li> <li>・ 表現方法を工夫し、計画的に制作に当たることができる（思考・判断・表現）</li> <li>・ 豊かな発想で構想し、目標実現に努力することができる（主体的に取り組む態度）</li> <li>・ 技術を尊びその習得に努力することができる（主体的に取り組む態度）</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4 月	表現手段としての美術（オリエンテーション） 観察と表現						
5 月	人物クロッキー・風景を描く・明暗で立体を描く・石膏デッサン						
6 月	絵の具を知る 身近なものを油彩で描く						
7・8 月	構図を考える・油彩の特徴を味わいながら描く						
9 月	さまざまなデザイン表現を学ぶ						
10 月	デザイン史・色彩・プロダクト・空間・文字・建築・野外彫刻・ファッション・情報 イラストレーションを描く						
11 月	方法の決定とプランニング 制作・完成・鑑賞						
12 月	美術表現の歴史を学ぶ						
1 月	東洋・西洋美術						
2 月	映像メディア表現						
3 月							

教科 科目	保健体育 保健	学 年	5年	単 位	1単位	担 当	浦元久美子
<b>【科目の概要】</b>							
<p>心の健康、食生活をはじめとする生活習慣の乱れ、生活習慣病、薬物乱用、性に関する問題など現代社会における健康・安全の問題は深刻かつ多様化してきており、心身の健康の保持増進が大きな課題となってきた。「現代社会と健康」の項目では、現代社会における健康やその対策の考え方変化してきていること、生活習慣や喫煙、飲酒・薬物乱用などの問題に対応する必要があること、自己実現を図る努力が必要であること、交通事故を防止するためには適切な行動や交通環境などが重要であること、及び傷害や疾病に際して応急手当を適切に行うことが重要であることなどが内容である。</p>							
<b>【育成をめざす学力】</b>							
<p>「健康で活力ある生活を送る態度や能力身につける」現在及び、将来の生活において健康安全の課題に直面したときに、的確な思考・判断に基づいて適切な意思決定を行い、自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び、健康的な社会環境づくりが実践できるような資質や能力を育成する。</p>							
<b>【評価基準・評価項目】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会生活における健康・安全について理解できる。</li> <li>・ 生涯を通じて自らの健康を、管理・改善できる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4・5月	オリエンテーション						
6月	1 私たちの健康のすがた 2 健康のとらえ方 3 生活習慣病と日常の生活行動						
7月	4 喫煙と健康 6 飲酒と健康 7 薬物乱用と健康						
8月	5 医薬品と健康						
9月	6 感染症とその予防 10 エイズとその予防（エイズ教育）						
10月	7 健康に関わる意思決定 8 意思決定・行動選択に必要なもの						
11月	9 欲求と適応機制 10 心身の相関とストレス						
12月	11 ストレスへの対処 12 自己実現						
1月	13 交通事故の現状と要因 18 交通社会における運転者の資質と責任						
2月	14 安全な交通社会づくり 15 応急手当の意義とその基本						
3月	保健の総まとめ						

教科 科目	保健体育 体育	学 年	5年	単 位	2単位	担 当	猪 寛子
【科目の概要】 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに、運動着の 高めることができるように、生活を明るく健全にする態度を育てる。							
【育成をめざす学力】 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気づき、体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、 たくましい心身を養う。							
【評価基準・評価項目】 ・ 集団で協力し、各自で考え行動・判断ができる。 ・ 個人的能力と集団的能力を身につけることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5月	1. 体育に関するオリエンテーション 安全教育						
6月	2. 集団行動 …体育で行う行動様式の習得						
7月	3. バレーボール ①基本的なボール慣れ ②パス…オーバーハンド、アンダーハンド ③レシーブ ④実技テスト						
8月	⑤ルール説明、ゲーム（班毎のリーグ戦）						
9月	4. ゴルフ ①基本練習…グリップ、アドレス、スタンス、素振り						
10月	②応用練習…ハーフショット、フルショット、寄せるショット、パター						
11月	③評価・実技テスト（フルショット・寄せるショット）						
12月	④ラウンド評価（何打でラウンドできたか）						
1月	5. バスケットボール ①基本的なボール慣れ（スキルテスト） ②パス…チェスト、バウンズ、アンダー、ショルダー、 ③ドリブル ④ドリブルシュート、ランニングシュート ⑤ジャンプシュート						
2月	⑥評価・実技テスト ・パス ・ドリブル ・ドリブルシュート、ランニングシュート						
3月	⑦ルール説明・ゲーム（班毎のリーグ戦）						

教科 科目	英語 論理表現Ⅱ コミュニケーション英語Ⅱ	学 年	5年	単 位	7単位	担 当	千葉敦子 野田美由紀・宇高かれん 天野ムチャレジス
<p>【教科・科目の概要】皆さんはこれまでに英語を勉強してきたと思いますが、まず、何のために英語を身につけるのか考えてみて下さい。英語は国際語として多くの国と地域で言語や文化が異なる人同士をつないでいます。より多くの人とつながるために、英語を聞き、話し、読み、書く総合的な力を育てましょう。さらに、英語は単にことばを身につけるためだけの科目ではありません。</p> <p>5年生では、社会・人生、地理・文化、福祉・科学、環境・社会、動物・福祉、言語・文学、社会・人権、国際・平和、の8つのトピックについて知識を深め、批判的に考える力や考えたことを伝える力を伸ばしていきたいと考えます。計7単位のうち2単位(論表Ⅱ)は、文法を中心に多くの演習問題を解きながら英語の表現力もつけていきます。1.5単位(OC)はチームティーチングで授業を行います。3.5単位(コミュⅡ)は教科書を使いながら多量の英文を読んで理解し、それを要約したり、自分の意見を書いたり話したりすることを目指し、最終的にディベートに挑戦していくための力をつけていきます。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <p>Reading 速くそして正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力 テキストを分析的・批判的に読む力</p> <p>Listening 目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力</p> <p>Speaking/Writing 与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力</p>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>Speaking</b> : 身近な問題についてディベートをすることができる。 学習した英文の内容の概要をまとめ、簡単な英語で発表することができる。</li> <li>・ <b>Writing</b> : 社会問題について、150語程度の英文で自分の考えや意見を書くことができる。 プロセスライティングの過程を実行し、パラグラフで自己表現することができる。</li> <li>・ <b>Reading</b> : 共通テストレベルの英文をA Bクラスはwpm90, Cクラスはwpm120程度で読み理解できる。</li> <li>・ <b>Listening</b> : まとまった英文を、メモを取りながら聞き、大意を把握することができる。</li> </ul>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】 ※特に記載がない月も、英検に関しては1・2学期は問題演習を実施予定</p>							
4・5月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 1 / 文法・表現力演習 / 英検問題演習等						
6月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 2 / 文法・表現力演習/Show&Tell・Writing等						
7月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 3~4 / 文法・表現力演習 / Discussion等						
8月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 4~5 / 文法・表現力演習 / ディベート						
9月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 5 / 文法・表現力演習 / ディベート						
10月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 6 / 文法・表現力演習 / ディベート						
11月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 7 / 文法・表現力演習 / ディベート						
12月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 8 / 文法・表現力演習 / ディベート						
1月	コミュニケーション英語Ⅲ Lesson 1 / 文法・表現力演習 / ディベート						
2月	コミュニケーション英語Ⅲ Lesson 2 / 文法・表現力演習/ ディベート・スピーキングテスト						
3月	まとめ <ディベート コンテスト>						

教科 科目	家庭基礎	学 年	5年	単 位	2単位	担 当	内田 絵理香
<b>【科目の概要】</b> 現在は男女が協力して家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことが重要になっています。人はどのような生き方をしようとも、日々の暮らしをなくすことはできません。家庭科は人間が生きていくために、自分の生活を自分でデザインする力をつける教科です。一人ひとりが生活の主人公になる力をつけることを目的とし、そのために必要な知識や技術、考え方などを学び、自らの力で生活できる能力を身につけ、自分の生活スタイルを自己決定するだけの基本的な構えをつくっていきます。							
<b>【育成をめざす学力】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を収集し、活用する力</li> <li>・課題に対してさまざまな角度から考える力</li> <li>・自分の考えをまとめる力</li> <li>・生活をよりよいものにしていこうとする意欲や創意工夫する力</li> <li>・生活の自立と共生のために必要な力</li> </ul>							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・子ども・高齢者・食生活についての基本的知識を習得できている。</li> <li>・安全に配慮し、手順通りにグループのメンバーと協力して作業することができる。</li> <li>・日頃の食生活を見直し、改善しようとすることができる。</li> <li>・必要な情報収集・活用ができる。</li> <li>・さまざまな視点から情報を分析し、自分の意見をまとめて発表することができる。</li> <li>・学習内容に関するスクラップブックを作成することができる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4・5月	1. これからの人生について考えてみよう 2. 自分らしい生き方と家族 ①共に生きる家族 ②家族に関する法律						
6・7月	3. 子どもとかかわる ①子どもとは ②子どもの発達 ③子どもの生活						
8～10月	4. 高齢者とかかわる ①高齢社会に生きる ②高齢者を知る ③高齢者の自立を支える ④高齢社会を支えるしくみ						
11月	5. 社会とかかわる 6. 食生活をつくる ①日本の食文化の形成 ②私たちの食生活						
12月	③栄養と食品のかかわり						
1月	③食生活テーマ学習						
2月	④食事の計画と調理						
3月	7.消費行動を考える						

教科 科目	聖書	学 年	5年	単 位	1単位	担 当	佐藤 清一
<b>【科目の概要】</b> 現在の教会がその成立から経てきた筋道を知り、キリスト教が人類文化の発展に果たした役割を学び、歴史に働く神のみ業を読み取る。							
<b>【育成をめざす学力】</b> A. 聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。 B. 知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。 C. 知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の歴史的知識を理解し、身に着けている。</li> <li>・日常生活において生じる様々な問題について、聖書に基づいて考え、判断したり、自分の意見を述べることができる。</li> <li>・聖書の授業に興味・関心を持ち、課題等に対して主体的に取り組み、課題を解決しようとしている。</li> <li>・キリスト教史から歴史に働く神のみ業を読み取ることができる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	キリスト教史を学ぶ意味 キリスト教成立の背景とイエスの時代						
5月	ペトロとパウロの活躍 ローマ帝国による迫害と公認						
6月	古カトリック教会の教えの確立						
7月	キリスト教のゲルマン人への浸透とローマ教皇権の伸張						
8月 9月	東方教会の発展						
10月	教皇と皇帝の対立と十字軍						
11月	ヨーロッパ中世の文化						
12月	教皇権の動揺と異端の動き						
1月	ドイツの宗教改革(1)						
2月	ドイツの宗教改革(2)						
3月	スイスの宗教改革						



教科 科目	インテグレーション5	学 年	5年	単 位	1単位	担 当	5学年教師
<p><b>【科目の概要】</b></p> <p>5学年の学年目標は「他者との協力で世界に関与できる生徒」です。学年行事である修学旅行（研修）を通して様々なことを学びます。同時に、クラスメイトをはじめ多くの方々との関わりを通して視野を広げていきます。また、今年度より導入のキャリア教育「Ring」プログラムを通して、「課題を解決する力」のみでなく、これからの成熟社会に必要な、「課題を発見して、解決を図る力」を育成していきます。この他、日本語及び英語によるディベート学習を通して、社会問題への関心を深め、多面的なものの考え方を学び、自分の意見を的確に表現できる力の定着を目指します。4学年で学んだ「論理コミュニケーション」については応用編に取り組みます。</p>							
<p><b>【育成をめざす学力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世の中（身近なところから社会全体における範囲）の課題を発見する力</li> <li>・自己の研究課題の発見と情報を収集・分析できる力</li> <li>・テーマに関する興味・関心と基本的な知識を身につける力</li> <li>・レポート発表のためにプレゼンテーションする力</li> <li>・根拠を明確にし、説得力のあるスピーチをする力</li> <li>・研究活動に対して、自己評価や相互評価ができる力</li> <li>・物事について筋道をたてて、論理的に考えることができる力</li> </ul>							
<p><b>【評価基準・評価項目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの質と適切さを見極め、情報源の出典を明示することができる。</li> <li>・学習した結果、何を読み取れたのかを「自分の言葉」で表現することができる。</li> <li>・研究課題に対して、的確な文章で表現し、プレゼンテーションができる。</li> <li>・自らの経験や観察から根拠を明確にし、それに基づいた意見を述べることができる。</li> </ul>							
<p><b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b></p>							
<p><b>〔1学期〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ring（キャリア教育）</li> <li>・日本語ディベート（準備）論理コミュニケーション（応用編）</li> </ul>							
<p><b>〔2学期〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ring（キャリア教育）</li> <li>・進路学習 模擬試験結果分析～学習姿勢の振り返り～ 志望動機書作成（第一志望届）</li> <li>・ディベート学習 日本語ディベートの研究と実践 日本語ディベート大会（クラス内試合）</li> <li>・論理コミュニケーション（応用編） ・コラム学習</li> <li>・研修旅行事前（平和）学習</li> </ul>							
<p><b>〔3学期〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベート学習 日本語ディベート大会（学年決戦） 英語でのディベート実践 英語ディベート大会（西南 English Day）</li> <li>・進路実現に向けて</li> <li>・論理コミュニケーション（応用編） ・コラム学習</li> </ul>							

教科 科目	高大連携講座	学 年	5年	単 位	2単位	担 当	5学年教師
<b>【科目の概要】</b> <p>高大連携講座は主に本校併設大学の教員との連携で、実際に大学教員による講義等を受けながら、大学における研究姿勢や研究意義を学ぶことによって進学意識を高める。また自主研究体験を通して大学での研究方法のスキルを学び高校での学びと大学進学後の学びをスムーズに連携させることを目的とした、本校独自の設定教科である。</p>							
<b>【育成をめざす学力】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学で求められる研究姿勢を身につけ基本的な研究ができる力</li> <li>・ 講義の概要をまとめる力</li> <li>・ 自己の研究課題を発見し情報を収集し分析する力</li> <li>・ 研究活動に対する自己評価・相互評価する力</li> </ul>							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究課題を見つけ調査研究し現状把握することができる。</li> <li>・ 問題解決の方策を発見することができる。</li> <li>・ 自分の考えを説得力ある表現で示すことができる。</li> <li>・ 多くの情報を収集し、活用することができる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション</li> <li>・ テーマ学習（グループごとに設定したテーマの探究学習） 現状分析・課題発見・改善 解決策の考察 パワーポイントによる発表</li> </ul>						
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ学習（地域の課題解決に向けた探求学習） 企業や専門家の講演を聞いて理解を深める</li> <li>・ 西南女学院大学の講義の受講 （事前研究 講座受講 レポート作成 プレゼンテーション）</li> </ul>						
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ学習（グループごとに設定したテーマの探究学習） 現状分析・課題発見・改善 解決策の考察 パワーポイントによる発表</li> <li>・ 志望理由書作成</li> </ul>						